

運 輸 通 信

太平洋に突出した房総半島を行政区域とする本県は、東京、埼玉、茨城各県と僅かに地を接するのみであるため、県内の交通機関はローカルな性質を持ち、国鉄幹線では常盤線が県北部を貫くに過ぎない。

即ち主な県内鉄道は、千葉を起点とし房総半島を一周する房総東線、同西線と、北総地方を横断して銚子に達する総武本線、佐松線のみである。また、東京方面には総武本線の電車区間が延び、多くの人々を輸送している。

国鉄、私鉄の運輸状況を見ると、両者とも年々輸送人員は増加している。特に郊外を走る私鉄は、沿線に新しい住宅地帯が作られる関係で、利用者の増加は益々激しくなる。一方、国鉄も最新ディーゼルカーを配して輸送力の強化に努力しているが、電車区間以外は単線運転のため、不便は免れない。

昭和26年に8 869台であつた本県の自動車台数が、5ケ年間に3.6倍の31 710台に増加したことも判っており、これら鉄道に対して自動車も近年路線を著しく拡張し、かつては鉄道の補助的存在であつた乗合自動車も、今日では人々の足として大きな役割を果している。その輸送人員は、乗用車を合せて昭和30年に7千万人となり、県内私鉄の輸送力を上廻っている。

次に本県の電話設備は、現在一部地域を除いて殆んどが旧式で、遠距離地区との通話に不便を来たしている。しかし電話加入者は年々増加し、昭和26年当時県民92人に1人であつた加入者が昭和31年には46人に1人となつた。このように利用の増した電話が、一日も早く自動化し、マイクロウェーブ通信で、主要都市間を即時通話のできるようになりたいものである。

国内電報は、近年取扱数を減少する傾向が現われている。これは電話の普及と郵便のスピード化等によるもので昭和30年は前年に比して14万通も減少している。